

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

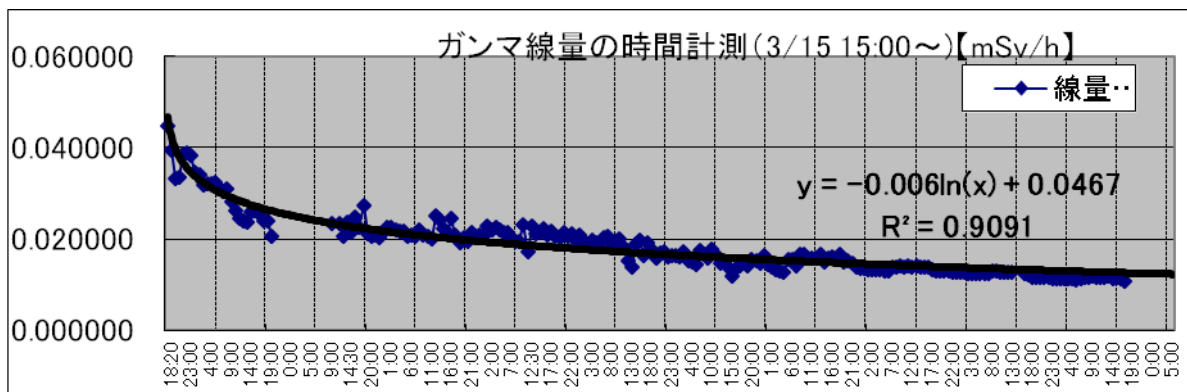
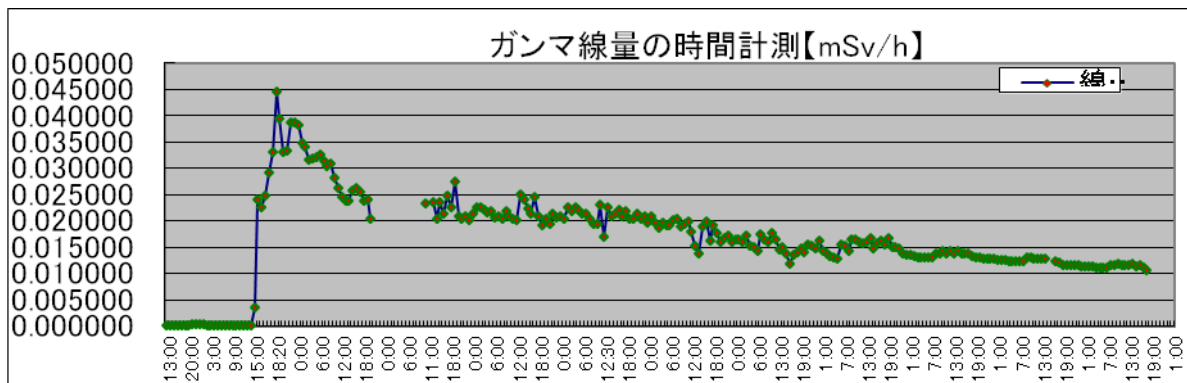
(1) 今日の主な出来事

- ・「福島原発事故による放射線健康リスクについて（長崎大学大学院 高村昇教授）」の講演会には、300人以上の参加があった。
- ・30キロ圏が避難対象地区に入ることを心配してきたが、国の指示に向けて該当区域（蕨平地区）は準備に向けて検討を進める必要が出てきた。
- ・昨日、県に対して土壌、農業に関する4つの質問等を行い、本日の夕刻の回答を求めたが、28日の朝の報告になりそう。
 - 1)（文科省の土壌データの）サンプルはどこで採取したものか？
 - 2) 今後の農業方針を立てるためにも、村内全域にわたる土壌調査の実施の可能性はあるのか？
 - 3) 国、東電はテレビで農家に対する補償をほのめかしているが、具体的な手順、方法はどのようなものか？
 - 4) セシウム137の農畜産物に対する影響、食した場合の体内被曝等の影響はあるのか？

(2) 放射性物質の状況

①大気

- ・役場周辺モニタリングポスト（地上1m）： 10.6 μ Sv（18:00 現在、雪）



- ・村独自に、村内20箇所を巡回して放射線測定をした。【別添の通り】

②水道

- ・村内簡易水道 4 浄水場の放射線データは下記の通り。
 - －滝下浄水場： 220Bq/リットル
 - －花塚浄水場： 162Bq/リットル
 - －田尻浄水場： n 値検出（既に 100Bq/リットルを下回っている）
 - －大倉浄水場： n 値検出（既に 100Bq/リットルを下回っている）
- ・成人の飲用正常値（300 Bq/リットル）は下回り、乳児以外は飲めるが、村民向けの安全宣言は見送る。当面 4 浄水所についての調査は継続していく。
- ・検査は、いずれも蛇口で採取したサンプルを用いる方法を採用している。いずれも 100 Bq/リットルを切るまで検査を実施する予定。なお、千葉の検査機関に検査を依頼している関係で、結果が出るまでに 2 日くらいかかる。

(3) 村民生活について

①飲料水

- ・ペットボトル水の支援があった。森参議から 6t、太田光昭県議から 8t のである。
- ・長期戦に備えて水、マスクの備蓄量を増やしていくことも必要になっている。

②ガソリン

村内企業で 3 社が営業再開。送迎用の車を運行しているが、燃料が足りないとのことなので 1 企業あたり 10 回（4,000 円分/回）の給油カードを配付することになった。

③幼稚園、小中学校

一学期一杯程度は、村外に学校機能を移すことを検討中。28 日に教委を招集し決定したい。

④郵便

郵便配達は「〒960-1721~1724」管内には、30km 圏（蕨平地区）も含まれるため配達ができないことになっている。郵便、小包は飯樋郵便局にも届いていないし、出すこともできない。40km 離れた福島市森合の郵便局まで行けば、受け取ることができる。

⑤放し飼いの犬

自主避難等に伴う、放し飼いの犬が増えている。相双管内全体で増えており、県（保健所）では、北部管内も含めてフォローができない状態との連絡を受けている。村民に対して、事故等の注意を促していく。

(4) その他

- ・消防団には発災直後から今日まで協力をいただいたが、個々の仕事に戻る必要もあることから、災害対策支援から離脱することになった。心から御礼を申し上げる。

【文中に掲載されている地名等】

地区の構成

